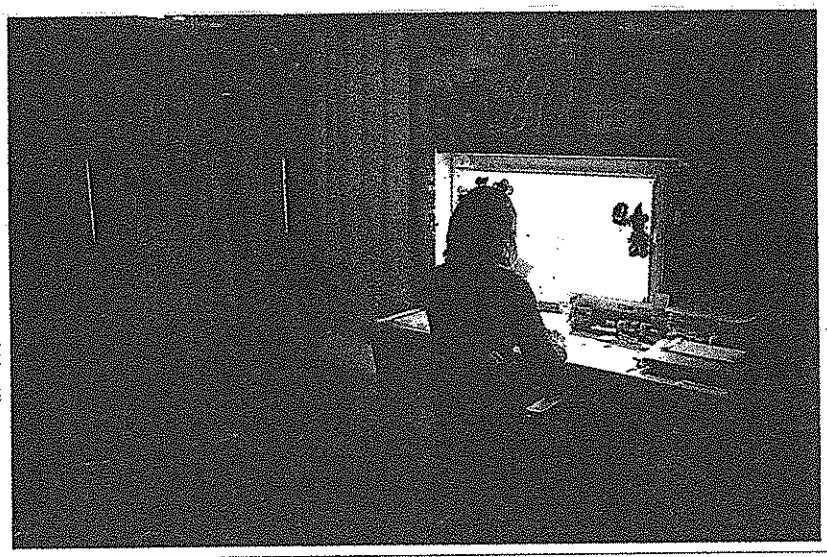
頭痛・失禁…少女のSOS

子ども貧困 学校で 1

2月、中部地方のある中学校の保健室は、夜も窓から明かりが漏れていた。日中から続く健康相談会。校医を務める小児科の女性医師が定期的に開いている。



午後9時過ぎ、一日の診療を終えて生徒の健康相談票に目を通す女性医師＝内田光撮影

原因見あたらず

この日、生徒10人ほどが相談に来た。寄せられる相談の多くは「不定愁訴」。体調がすぐれないのに原因が見あたらない状態のことだ。

居酒屋で働く少女(16)は中2の秋、相談会に来た。

「頭が痛い。ときどきおねしょする。あたし、病気なの？」

「大きな病気じゃないのよ。眠りが浅くて睡眠の質が悪いの」。落ち着かせながら、家庭環境を尋ねた。頭痛、尿失禁など思春期の不定愁訴に貧困がひそむ事例を、これまで何度も目にしてきた。

母子家庭で姉と兄がいる。母親はパートで働いたが、長続きしない。終日パチンコ店にこもる。精神的に不安定で、掃除も食事の支度もしない。

子どもたちは母親が持ち帰る弁当1個を分け合って命をつないだ。空腹に耐えられず、兄が隣の玄関先に置かれた生協の宅配物をくすねて来ることもあった。

何度も自己否定

少女は中学に入学したが、休みがちだった。養護教諭は給食を食べさせようと保健室登校させた。同じころ、兄の家庭内暴力が激しくなった。少女はささいなことで殴られ、顔を紫色に腫らしていた。

ひとり、叔母の家に避難した。だがそこも貧しく、小学生のいとこと一つ布団で寝た。相談会に現れたのは、そのころだ。

「あたしはいらない存在」「何もいいことない人生」。自己否定のことばを繰り返した。

女性医師の知らせを受けて担任が家庭訪問を繰り返し、養護教諭も保健室で相談にのった。「勉強、がんばる」と持ち直したが、翌年の相談会にも来た。

「心臓が痛い」「息を吸うとつらい」と相談票にある。高校受験を控えた教室は進学一色。少女も高校でデザインを学びたかったが、「お金がない」と母親に反対されていた。

アルバイトで家計を支えることを条件に昨春、県立高校に入学。だが、最初に支給された奨学金は母親のパチンコ代に消え、夏休み前に退学した。

今年1月、女性医師は少女と再会した。ヘアメイクの仕事をめざしていた。バイト先の居酒屋のおかみさんが娘のようにかわいがってくれ、親身に相談にのってくれるという。「つらいことがあっても次があると、今は思える」。吹っ切れたようだった。

「誰にも言えん」

女性医師は町医者として日常的に地域の小中学校や保育園の医療相談にのっている。校医を務める中学校で、5年ほど前から独自に年数回の健康相談会を始めた。これまで100人余りから悩みを聞いた。

ある中3男子は頭痛を訴えた。教師に暴言を吐き、教室で暴れた。毎晩、母親が働くコンビニに小学生の妹と通った。賞味期限切れの弁当をもらうために。勉強がわからず、経済的にも進学は許されなかった。

不眠や手の震えを訴えた中3女子は、ホステスで稼ぐ母親とぎりぎりの生活を送っていた。恋愛話で盛り上がった後、「誰にも言えんかった」と抱えていた苦しみを打ち明けた。独り夜を過ごす寂しさからネットで男と知り合い、性的関係を強要されていた。

相談会の後、担任や養護教諭、生徒指導主事らと内容を共有し、支援の検討を重ねる。自身も児童相談所や行政の窓口に足を運ぶ。

「氷山の水面下のように生活が見えない子どもたちの存在に、どう気づくか。学校だけでなく、子どもと接点を持つできるだけ多くの人が、絶えずアンテナを張る。SOSに気づけば、道は広がる」（足立耕作）

子ども支援 医師も参加を

頭が痛い、胸が苦しい、めまい、不眠、食欲不振、けだるいといった不定愁訴は、自律神経系の異常によって起こるとされる。主として強いストレスが背景にあると考えられている。

医療の専門外の人がみると「わがまま」「根性がない」などと仮病扱いされることもある。医師の協力で、不定愁訴から貧困やネグレクト（育児放棄）を把握できる可能性が高まる。

桃山学院大の金沢ますみ准教授（スクールソーシャルワーク論）によると、保護者自身が受診経験に乏しくわが子の病状に気づかない、医療費助成を知らないなどの理由で、受診させてもらえない子どもが大勢おり、「学校で医師に出会える意味は大きい」と言う。

校医は学校保健安全法で各校への配置が義務づけられ、健康診断や健康相談にあたる。しかし校医は日常の診療に忙しく、学校業務に多くの時間を割けない。

「校医も子ども支援のチームの一員。教職員と校医が気軽に相談しあえる関係の構築が大事です」と金沢准教授。学校で子どもの支援を話し合う「ケース会議」に校医が参加できる仕組みを提案する。

子どもと貧困について、ご意見をお寄せください。メール（asahi_forum@asahi.com）か、〒104・8011（所在地不要）朝日新聞オピニオン編集部「子どもと貧困」係へ。

外からは容易に見えない子どもの貧困。学校現場は子どもたちのSOSをどうキャッチし、どう向き合っているのか。4回にわたり報告する。

2/23 朝日